

信楽町における茶セル育苗に対する支援

対象者 信楽町 K氏

【普及活動のねらい・対象】

信楽地域においては、昭和40年代に整備された茶園が多く存在し、計画的な改植やそれに伴う優良品種の導入を進める必要があります。現在、改植時に使用する苗をすべて購入苗に頼っていますが、苗質の問題や定植適期に植えられない等の問題があり、コスト面でも農家の大きな負担になっています。さらに、一昨年、夏場の高温や干ばつの影響を受け多くの幼木が枯死し、苗の再購入に多くの時間と経費を費やすことになったこともあり自家育苗へ切り替えることが課題です。

そこで、既に主流となっているペーパーポットを利用した自家育苗を参考に信楽町における自家育苗技術の定着を図るため、改植意向が強く、セル育苗技術の習得を望まれていた信楽町K氏へ支援を行いました。

【普及活動の経過】

1. 土づくりから挿し木まで

K氏の茶園から採取した土を用いて適正なpHと重量になるよう砂とピートモスの割合を検討しました。

挿し木に関しては、適正な穂木の選定と穂木を採取する時期、発根処理の方法を助言しました。

2. 育苗管理について

自身のハウス設置が間に合わなかったことから、JAの施設を利用して、水管理や温度管理、直射日光対策について農家とともに経過を観察しました。特に発根するまでは、多湿条件となり炭疽病などの病害が発生しやすいため灌水や病害虫防除のタイミングに気を付け、発根後は葉色の低下を見てトレイに追肥するなど苗の生育状態に応じた対策を行うように助言しました。



挿し木直後の苗木

【普及活動の成果】

育苗培土は、砂:ピートモスを3:7で配合すればpH4.7を保ち、重量はペーパーポットよりも7kg以上、1トレイすべてに砂を敷き詰めた場合に比べても重量が約2kg軽量化できました。さらに、約600本を挿し木することができ、活着率も90%以上と高くなりました。このような結果について、農家からは「セル育苗の方法が学べ、小面積・少量土壌で多くの良質な挿し木ができることがわかり、持ち運びもしやすい」という感想が得られ、ペーパーポット育苗より作業性やコスト面で優れていることを実感されているようでした。

今後は、定植後の生育の遅れが考えられることから、定植後の幼木の管理についても検討し、信楽町の他の茶農家へ普及するよう課題解決を図っていきます。(川上)

表: セル育苗とペーパーポット育苗の活着率

	挿し木本数	活着率(%)	重量(kg)
セル育苗	462	94.2	4.5
ペーパーポット育苗	80	98.8	11.8